

JPCOAR研究データ作業部会 「機関リポジトリへの研究データ登録ガイドライン」公開！

甲斐尚人(大阪大学)、小林裕太(千葉大学)、石山夕記(一橋大学)、田中幸恵(名古屋大学)
朝岡誠、鹿沼智美、佐藤知生(国立情報学研究所)、南山泰之(東京大学)

- 研究データ登録の“全体像”を体系的に整理したガイドライン
- 登録手順・メタデータ・DOI・更新・非公開／削除まで、実務で困りやすい点をカバー
- 研究データ登録に関わるすべての研究支援者が使える実務書
→ 現場の不安・疑問を減らし、

登録業務の標準化と効率化を支援

機関リポジトリへの
研究データ登録ガイドライン



目次	Ver. 1.0
I. 本ガイドラインについて	3
II. 事前知識	5
1. 登録の前に	5
2. 「研究データ」として登録対象となる資源	5
2.1. 研究データの定義	5
2.2. 論文と根拠データ	5
III. リポジトリ登録	7
1. リポジトリ登録のパターン	7
パターン1 研究データのみを単体で登録する	7
パターン2 研究データを論文の一部として登録する場合	10
2. 登録依頼	10
2.1. 登録データの受領方式	10
2.2. 提出物の確認作業	12
3. 登録作業	13
コラム「研究データ」登録の際に登録必須となる項目	15
4. 登録完了後	18
4.1. 確認作業	18
4.2. 依頼者への完了通知	18
コラム「データリポジトリにおける処理」	19
データに対する処理	19
データの再構築	20

即時OA義務化に対応する“ガイドライン”が必要

- 公的資金の研究成果は論文・根拠データまで即時OAが求められる時代へ
 - ・ 研究成果の透明性・再現性を確保するため、必須の要件に
 - ・ しかしリポジトリ登録の現場では、データの扱い・登録手順・権利確認などの実務が統一的な指針として整理されていない状況
 - 政策要請と現場実務をつなぐ“共通のガイドライン”が求められる
 - ・ 組織として一貫した判断や運用を行うためには、全国で参照可能な
実務ガイドラインが必要
- そこで、現場レベルの判断指針まで含めた

「研究データ登録ガイドライン」を作成

ガイドラインのポイント 3つ

① 研究データ公開に必要な実務プロセスを体系的に整理

- ・受領・確認・権利・メタデータ・公開・更新・非公開までを一貫して提示
- ・担当者が判断に迷いややすい部分を標準化し、業務を安定化

② 論文と根拠データの関係を適切に示すための基本的な枠組みを提示

- ・JPCOARスキーマによる関係記述の基本方針を明示
- ・研究成果の関連性を正しく表現し、公開の質を高める

③ 公的資金の要請や機関方針と整合する登録・公開の基準を提供

- ・メタデータ共通項目(内閣府)等に対応した入力項目を整理
- ・即時OAへの対応や機関内ワークフローの整備に活用可能

自機関のリポジトリ運用にぜひご活用ください！

- ・自機関のワークフロー構築・改訂にそのまま使えます
- ・研究データの公開体制を整えるための「実務の必携書」

ガイドラインは以下からダウンロード可能です

<https://doi.org/10.34477/0002000667>

